

一歩



全教会布教推進月間

～ 一手一つに世界たすけの歩みを進めよう ～

従来から、毎年9月は「にをいがけ強調の月」として取り組まれてきましたが、昨年より教祖140年祭を控え、「全教会布教推進月間」として、管内各地で一層活発な活動が展開されました。伝道庁においても、9月の月次祭前日ににをいがけを実施しました。14頁に関連写真。

天理教アメリカ伝道庁

No.935

OCTOBER

2025



TenrikyoAmericaCanada.org



つらつらせんがく 熟々浅学



— 「旬」について (2) —

今月は本部にて秋季大祭が執り行われます。立教の元一日を記念して勤められますが、今一度、立教の元一日を振り返り、何故親神様が教祖をやるに定められて天降られたのか、その目的は何なのかを再確認していただきたいと思います。そして、心新たに、来月に各地区にて「第5回ようぼくの一斉活動日」が開催予定ですので、各々の近くの会場にてご参加いただき、教祖140年祭年祭活動を推進していただきたいと存じます。

また、11月15日には、伝道庁にて「ようぼく」の集いを開催しますので、一人でも多くの方にご参集いただきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、前回の続きを書いてゆきます。今回の翻訳も難しいと思いますので、翻訳をされる方には事前に謝っておきます。すみません。

明治24年5月15日午後11時25分「刻限」に、「…いつも春は春、春のように思うて居てはころりと違う。いつでも花の咲くように思うて居るから分かりません。何処からどんな風吹くやら、どんな風あたるやら、さあ／＼どんな風吹くやら雨が降るやら知りません。(中略)花の咲く旬、何ぼどうしたて、旬が来にゃ咲きはせん。風が吹く、雨と天気と待つけれど、大風だけはどんな者でも風は待たん。危なき道があるからちゃんと聞かしてある。…」

とあります。「春」に花が咲くように思っているが、そうではないと仰せられています。何処からか吹く風や雨の影響によって咲かないこともある。「旬」が来たから花が咲くということではない。きちんと準備が必要である。

「風」や「雨」は「危なき道」と理解すればよいでしょう。そのような「危なき道」については事前に伝えてあると仰せられています。

明治24年8月19日、「増野正兵衛三日前より腹下り夜分夜通し下り、しぼり腹に付願」に、

「…植えたる事情は旬という事情ある。旬があれば皆生える。生えたら修理という。(中略)旬が悪いという。悪うても下ろせば生える。生えたら修理々々、よく聞き分けは難しい事はない。…」とあります。この年に、増野正兵衛氏と身内の身上伺いの「おさしづ」が多くありますが、それらを指して事情と言っておられるように思います。その事情の“芽”は、「旬」が来たら表れて来ること。人間に都合の悪い事情の“芽”であっても「旬」が来たら生えるとの仰せで、その“芽”が生えてきたら“修理”をするようにとのことです。つまり、“芽”が生えてきたら対処するようにという意味だと思います。それは、「たんのうせよ」ということなのでしょう。

明治25年5月1日、「増野正兵衛腰の痛みに付願」に、

「…身上第一案じる事は要らん。案じる理は案じるの理を拵え、案じるように理を拵え、気がいすむ。一つ大き理を定め。旬来れば花が咲く。大き事情に諭し置く。」

とあります。身上を頂戴していても案じることのないようにとの仰せです。案じれば気がいすむとまで仰せくださっているのですが、身上を通して大きな心を定めて通れば、「旬」が来た時に花が咲くとの仰せです。身上に対する心の持ち方、気の持ち方をお諭しくださっています。

明治26年12月16日夜12時、「刻限」に、

「…席と言う一あつての二、何程賢うても、晴天の中でも、日々の雨もあれば、旬々の理を聞いてくれ。聞き分けねば一時道とは言わん。…」

とあります。「席」とは本席様のことで、「おさしづ」をお伝えくださっているのですが、この「おさしづ」

全体を読みますと、その時に応じて述べられる本席様の「おさしづ」を軽く扱っていて「旬」を逃しているように仰せのようです。「刻限」の「おさしづ」は、親神様からの「お諭し」、「角目の話」と受け取るべき内容ですが、この「おさしづ」もその一つです。

明治28年5月12日、「飯降政甚東の方へ治まりて後を継ぐ事情運ぶ件願」に、

「…ものというものは旬がある。道理諭せば皆旬がある。旬が外れると、種を下ろしても生えるものもあれば、生えんものもある。旬が外れば覚束ないもの。どんなものでも旬が外れると、一花だけで落ちて了たら、どうもならん。…」

とあります。どのような事柄にも成就するための「旬」があるとの仰せです。さまざまな事柄・物事を成就したいがために種を蒔くのですが、その時いたる種の「旬」を外すと生えない時もあるとの仰せです。つまり、物事が進まないとの仰せです。「旬」が如何に大切であるかをお示しくださっています。

明治28年5月22日朝、「前川菊太郎副会長選定の願」に、

「…刻限は旬を外さんための刻限。…」とあります。先ほども書きましたが、「旬」を外さないように「刻限」の「おさしづ」をくださっているのです。そのことを明確にされておられる「おさしづ」です。この少し後に「刻限以ての話、さしづ用いねば、尋ねは要らんもの。」と仰せられ、「おさしづ」を用いず「旬」を外してしまったがために、現状の問題が起きているのとの指摘です。「おさしづ」を用いなければ、何のために「おさしづ」があるのかと、厳しいお諭しです。

明治31年3月28日、「前日おさしづにより教長へ御伺い申し上げ、その趣きは婦人会の処何か区域を立て、何とか名前付けますものやという願」の最初の割書きがありますが、この後の割書きに「おつとめに出る鳴物の御方の順序の願」に、

「…今日種を蒔いて今日に出けん。旬を見て生える。又実が出る。これ聞き分け。…」

とあります。「おさしづ」の文面通りに受け取ればよいと思いますが、この「おさしづ」全体の内容から読み取りますと、周囲の目からすれば、この女性をつとめ人衆として登用するのは心もとないかもしれないが、今すぐには難しいように見えて

も、年限を経て成人するのであるから、先を見て育てるようにとお諭しになられているようです。

尚、この「おさしづ」の3日前の3月25日に天理教婦人会創設に関する「おさしづ」がありますので、その流れからもこの「おさしづ」を読み取る必要もあるように思います。

明治37年11月2日、「本席身上御障りに付願」に、「…時という、旬という。時ある、旬ある。旬が外れたら、一掛けから組み替えせにやらん。…」とあります。「旬」を外しては、最初から始めなくてはならないと仰せです。

この「おさしづ」にもありますが「時という、旬という」、或いは「旬という、時という」とのお言葉がありますように、「時」と「旬」はセットのように使われていて、同じ意味を持っているようです。

明治40年5月21日（陰暦4月10日）午前2時半、「刻限御話」に、

「…旬を外さず、してくれ。外してはならん。旬を外しては出来やせん。…」とあります。

この「おさしづ」は、本席様のお出直し前の所謂「100日のおさしづ」と言われる中に含まれます。教祖30年祭に向けての“最後のお仕込み”と言える「おさしづ」です。ここでも「旬」を外さないように、「旬」を外しては事柄・物事が進まない、成就しないと仰せられています。

取り上げてきた「おさしづ」を読んでいただければ分かるように、「旬」を大切にすることを強調されておられます。「旬」を外すと成人が鈍る、或いはできない、また、事柄・物事が成就しない、場合によっては最初から事柄・物事を始めなければならぬことも生じると、お諭しくださっていると受け取れます。

教祖140年祭は、私たちにとって「旬」です。少しでもこの「旬」を活かせるように活動していただければと思います。

深谷 洋

立教188年9月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの思召のまに／＼、この世人間をお創めくだされ、約束の年限の到来と共に、教祖をやしろにこの世の表に現れて、だめの御教えをお啓きくだされ、永の年限、尽きることなき御守護と幾重のお仕込みにより、一れつ人間の成人をお見守りくだされ、お導きくださいます御高恩の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は、御恩報じを念じて、持ち場立場にて、日夜たすけ一条の道を歩ませていただいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の九月の月次祭を執り行う芽出度い日柄に当たりますので、只今より、おばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせ、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日をよぶく、信者一同が参り集い、日頃賜る御恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、当伝道庁の立教百八十八年秋季霊祭を滞りなくつとめ終えさせていただき、誠に有難うございました。これからも霊様方の御功績を礎に、更なる道の伸展に努めたいと存じます。

今月は教祖百四十年祭年祭活動の最終年の全教会布教推進月間ですので、管内の一人ひとりがよぶくの自覚を以って、にをいがけ、おたすけに励み、更に御教えが広まりますようお願い申し上げます。

私共は、世界中で起きている戦争や紛争の治まりを願い、また、自然災害の被災者や身上、事情を抱えている者のたすかりを願い、御教えの素晴らしさを世界に、また次世代に伝え広めて、更なる道の伸展を目指し、教祖百四十年祭年祭活動を推進したいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいます、至らぬところは幾重にもお仕込みくださり、尚も変わらぬ親心を賜り、一日でも早く世界の人々がたすけ合って暮らせる陽気ぐらしの世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

9 月月次祭神殿講話

サンフランシスコ教会長
田中 知義

只今は庁長ご夫妻を芯に本日ご参拝下さいました皆様と共どもに九月の月次祭を滞りなく勤めさせて頂き誠に同慶に存じます。

届きませんが、ご命を頂戴致しましたので、しばらくの間お付き合いをお願い致します。

昨日は本年の秋の御霊祭を取り行わせていただきました。この御霊祭はご存じの通り、天理教では、春と秋につとめさせて頂いております。世間一般ではお彼岸は、ご先祖様を供養して執り行われる事であります。又「暑さ寒さも彼岸まで」と言われる様に、ある意味では気候の区切りにも使用されるようですが、当然日本の事であり、その年にも又地域により誤差が生じてまいります。サンフランシスコの太平洋側では、夏でも寒いことが往々にして御座います。

今日は少しアメリカ、カナダの先人の方々のお話をさせて頂きたいと思っておりますので、しばらくお付き合いくださいますようお願いいたします。少々暗くなる想いも御座いますが、ご了承をお願い致します。

アメリカ伝道庁管内におきましても、大勢の先輩諸先生、奥様方がここの御霊様として私たちを、御見守り下さっておられます。その先輩諸先生方のご苦勞に感謝、御礼させていただくのが、この春、秋の御霊祭だと思えます。

昨年の6月に執り行われました、アメリカ伝道庁創立90周年記念祭の日に図書館にて広報委員会の先生方のお力で、写真で見る伝道庁の歩みを拝見させていただき、先輩、諸先生方のおかげにて今があることを改めて痛感させられました。

お若い方々はあまりご存じない方もおられるかも知れませんが、又私も知らない事では



たが、アメリカ伝道庁管内には設立当時ハワイ州、厳密には未だ州ではなく準州の時代です、因みにアメリカ合衆国の50番目の州で、1959年に正式に州になっております。

又メキシコ国も入っており、現在のカナダ、アメリカ管内より随分広い地域を擁していました。余談ですが神殿内の壁の窓の上の方に取り付けられています、ぼんぼりの照明器具はメキシコのある布教所長様の手作りのお供えと聞いております。

私共の初代会長をお勤め下さいました、(私現在サンフランシスコ教会長を務めさせて頂いております) 神沢常太郎も山梨の小さな教会の会計を任されており、自教会借財の返済をすべく奥様、子供を置いて単身渡米され、言語、風習文化の違う中、他の移民で来られた多くの方々同様ご苦勞の道中をお通り下さいました。当初は出稼ぎに渡米されたのであります。現在でも、若い世代の方々が多く海外の地で言語を学びながら併せてお金を稼ぐ事をされている方が多くおられるとニュースで見聞き致しました。

初代会長も当然のことですが、出稼ぎに渡

米されたのでありますから、完済の後いずれ日本へ引き揚げる思いで有られたと思います。が、親神様の想いは他の所に在ったようで、「当地にて教会を持つように。」とのお言葉を大教会長様より頂かれ、昭和2年、1927年にサンフランシスコ教会のお許しを頂かれました。

1933年に二代真柱様がシカゴにて宗教者大会に御出席されました機会を利用され、当時アメリカに御座いました教会を御巡教下さり、アメリカ伝道庁の設置の必要性を思われ、翌年の1934年にロスアンゼルスに当伝道庁を設立されました。

教祖50年祭(1936年)にアメリカ伝道庁としての初めてのおちびがえり団体として参拝されました。教会長その他約100名近くの帰参者が参加されました。当然当時は船にて行き来されておられましたので、又久しぶりの日本帰国でしたので多くの方々が約半年の長旅をされたようです。

先輩先生方が年祭からお帰りになられた後、かねてからの懸案でありました神殿ふしんが持ち上がり、(今使用されているこの神殿)同年8月に起工式、3年後の1939年5月には神殿落成奉告祭が執り行われました。もうその頃は、世界の情勢があやしくなってきた時代の中で、特に移民で来ておられた方々は落ち着かない日々が続いた事と思います。

新しくできました神殿でしたが日米開戦により、西海岸より全日系人の強制立ち退きが発布される中、黒人キリスト教会に貸与することとなり、戦時中はそのように使用されておりました。

1941年12月に日米開戦が起こり、数名の会長様方は、FBIに連れていかれ、尋問をされたようにもお聞きしております。又日本で兵隊の任務に就かれていた先生方は取り調べも厳しかったようで、何名かは留置場に留め置かれたそうです。翌年の2月には大統領令で、全日系人の強制立ち退きが発布されました。私が先輩よりお聞きいたしましたのは、都市部に於きましては、各地の競馬場に大勢を集められたと、言っておられました。持ち物は自分で持てるスーツケースなど2個までであったそうです。昨日まで馬などが繋がれて

いた、厩舎に入れられ、馬の尿、糞、かいばの匂いがする厩舎などに入れられた方々の敵国の人間とは言えども、明日自分たちはどうなるか分からない不安が、大部分の方たちの想いであつたらうと推察できるのであります。いったん競馬場などに収容されました後に、アメリカ政府によって即席に作られた各地の収容所に移送されました。約十数万人の日系人をアメリカ国内十数か所に分けて、収容され、その強制収容所の場所は殆ど砂漠地帯に設けられ、夏は非常に暑く、冬は非常に寒い、簡易作りの板張りで隙間だらけで、大変なところであったそうです。今でしたら、人権問題に発展し、許されない事だと思います。

何も罪を犯していない人たちが有刺鉄線で囲まれ、兵隊が銃を持って中に入れられている人を監視している様な所で生活を強いられた事は、当初は大変な戸惑いを隠せなかった様に思います。そして十数万人の内約三分の二がアメリカ国籍、アメリカ合衆国で生まれた人たちです。

収容所に入れられた人たちは、全部の収容所が同じかどうかわかりませんが、出される食事はジャガイモとか、ピクルの様な物が多く、日本人の食生活とは程遠いものであったそうですが、一年後くらいから、収容所内におられた農業を生業としている人達を中心に畑を耕し、種をまき大根、ほかの野菜が収穫され、少しずつ以前食していた物を食べられるようになりました。

今思い返せば、1942年から1945年にかけて約3年半の期間、収容所に入れられたのでありますが、当時の人々には、いつこの戦争が終わり、無事にここから出て行けるかどうか分からない日々を過ごされていたことを思いますと、ご苦労がしのべれます。余談では有りますが、南米の地よりも数千人の方々を送られて来た様です。又カナダ国でも同じような収容所があったそうです。

その様な中でも収容所で、月次祭も執り行われており、教祖のご苦勞を忍ばれておられたのではないのでしょうか。

1944年には神沢常太郎会長及び神沢夫人が相次いで収容所に出入されました。

日米戦争も 1945 年に終結され、収容所に入っていました人々も開放され、それぞれに帰って行かれました。解放時には一人 25 ドルと元来た処への切符代が渡されて、多くの方は元の場所に戻られました。少数の方は新天地にて再出発をされたようです。

因みに 1 ギャロンのガソリン価格は 21 セント位だったそうです。

多くの方は一からの出直し同様に、又元の土地に戻って来ましても大変なご苦労だったと推察されます。当初収容所からロスアンゼルス近郊の、伝道庁周辺の教会家族の方々は、この神殿で寝泊りをされておられましたようです。弓削郁子前ヘリテッジ会長様よりお聞きいたしましたのは、収容所に入れられた時期には、神殿の上段、中段に各教会からあづけられた神具が置いてあったそうです。

ここに寝泊まりしておられた方々も皆それぞれ以前の生活に戻っていかれましたが、多くの家族は初めからやり直しでした。

此の原稿を書いておる自分でも気が滅入っておりますので、聞いておられる皆様に申し訳無く存じますが、当然私が体験した事柄ではありませんが、色々な先輩体験者からお聞きしたこと、又写真、映像などからほんの冰山の一角をお話しさせて頂いています。あまりその当時の事を、詳しく自分から進んでされる方はおられませんでした。こちらから聞かせて下さるようお願いをすると、ぽつぽつとお話し下さいました。

この悲劇が 1988 年当時のレーガン大統領により正式にアメリカ政府としての謝罪をされ、一応の幕引きになりました。

収容所の話を致しますと本一冊では、済みませんので、やめますが先輩先生方は大変なご苦労をされたことを今一度お伝えいたします。

諭達第四号に、

「教祖一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通じ、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。」とお記し下さっております。1945 年から 80 年が経ち戦前、戦中、戦後と



先輩先生方が教会を守り、私たちにバトンを受け渡してくださいました。

今度は私たちが、次の世代にこの渡されたバトンをしっかりと渡していく必要があると思います。

私ごとになりますが、先月 8 月にて初めてアメリカに来させて頂きまして 60 年になります。途中 4 年程おちばに帰らせて頂き、修養科、専修科と学ばせて頂きました。最初に来させて頂きました頃は戦後 20 年でまだ多くの一世の方がおられ、明治生まれのお年寄りが多く、現在はインターネット等を利用して地球の裏側で起きている事を瞬時に知ることが出来る時代になってはいますが、その頃は、テレビ、ラジオ、新聞ぐらいが私たちの情報源でした。他には何もない時代でしたので、それでもそれぞれの県人会が盛んで、それぞれのお国訛りにて会話をされておられ、明治時代のお年寄りが多くおられ、聞いたことのない死語になっているような言葉もあり、又日系人特有の和製英語もありで理解に苦しむことも度々ございました。

又それぞれの教会、お寺などは参拝を兼ねて友人同士等の集いの場所にもなっていたと思

われます。

私は今までもこれからも、大事な事は親に喜んで頂く事だと思えます。それには色々御座いますが、一つは親元へ帰らせて頂く事です。教祖がおられる、おぢばが一番なのですが、上級教会、伝道庁、父母が居る実家など、元気な顔を見せるだけでも親孝行になると思えます。

私どもの大教会の教祖 140 年祭の活動目標に「教会に上級教会に参拝をしよう」という項目が御座います。自分の教会だけでは無く、さらに上級教会へも合わせて参拝させて頂こうということになり、それがおぢば参拝にも繋がって行くのでは無いでしょうか。

もう 5 年以上にもなりますが、私たちが一生に一度体験するかしないかとも思われていますが、世界が感染症に包まれ身動きが不自由になり、行動に制限がかかり、大変な事になり、ここ伝道庁に於きましても、おつとめが十分につとめられない事になり、又各教会でも外からの参拝者をお断りしたりと、神様からの厳しいお知らせが御座いました。その間世界中にて大勢の方が御出直しされ、お葬式にも参列にいけない事も多く御座いました。

現在そういう行動に制限は無くなりましたが、今もって教会に参拝に行けない方、行かない方が多くおられるのも現実だと思えます。

話は変わりますが、先ほども申し上げましたが、2 年程前よりサンフランシスコ教会の会長を務めさせて頂いております。40 年程前に以前の教会を、お預かり致しました折に、現在の建物を購入させて頂きましたが、普通の一軒家しか購入出来ませんでしたので、神殿、上段部分が狭く、ここ伝道庁の御霊様くらいの部分しか無く、普段は人も少数にて十分なのですが、たまに人が多く来て下さいますと、横に並んでつとめさせて頂けない状態になりますので、いつか神殿を広げさせて頂きたいとの思いをこの 40 年近く抱いております。

その実現に向かってこの 2 年の間に現実味が起こって参り、出来れば、2 年後の 2027 年に神殿増築の奉告祭を取り行わせて頂きたいと、勝手に思案をさせて頂いており

ます。又、2027 年は教会設立 100 周年の年にもなります。想い返せば、大教会長様より、サンフランシスコ教会の会長のお話を頂きましたのは 10 年くらい前の事でしたが、現在お預かりしている教会をどうするかで、時間が掛かり、その後はコロナ感染にて身動きが出来ず、2 年前に至った訳でございます。

これも神様の御計らいとしか言えません。

2 年前の 10 月におぢばにてサンフランシスコ教会のお許しを頂き、12 月初旬の奉告祭に向けてひのきしんの最中、人生 3 回目の心臓のお手入れを頂き、入院、手術の運びになり、奉告祭まで丁度、3 週間の猶予を頂けて、周りの方々に助けられ、教会につながる方々のひのきしんで、滞りなく無事に奉告祭を努め終えさせて頂きました。

当然これからが正念場になりますが、色々困難な事も出てまいります、先の事を見据えて今は楽しみばかりの毎日です。

おかげ様にて身上も現在のところ壮健にさせて頂いておりますが、ストレス、プレッシャーに弱い人間ですので、いつ又心臓の血管が詰まるかわかりませんが、勇んで努めさせて頂いております。

私の場合、自分から進んで色々出来る人間ではありませんので、神様の方から、あれしろ、此れしろと言って下さるのでありがたいと、思っております。

皆様方も、教祖 140 年祭まで後 4 か月、今出来ることをさせて頂いて、教祖に喜んで頂き、1 月 26 日に一人でも多くおぢばに参拝させて頂きましよう。又 1 月は無理でも他の月に是非ご参拝させて頂きましよう。

ご清聴ありがとうございました。





伝道庁連絡



9 月月次祭

祭主 庁長
 扈者 中富淳次郎 雪本善
 賛者 伊藤光春 伊藤錦平
 指図方 雪本利清
 神殿講話 田中知義 (日)

教会事情

シータック教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび予定：2025 年 11 月末
 後任予定者：長尾照明
 奉告祭予定：2025 年 12 月 14 日 (日)
 ヘリテッチ教会：電話番号変更
 教会長携帯電話番号、FAX は撤去

お出直し

帆足敏子ノウスシャトル教会会会長が 8 月 13 日に
 出直されました。享年 96 歳。ご生前中のご功績に厚
 く御礼申し上げます。尚、本誌での連絡が遅れました
 こと、お詫び申し上げます。

よふぼくの集い

11 月 15 日 (土) の午後、
 よふぼくの集いを開催致し
 ます。午後 1 時 30 分に受
 付開始、午後 2 時より開始
 し、4 時 30 分までには終
 了の予定。夕勤後に懇親会
 を行います。
 参加希望者は、右の QR コー
 ドからお申込みください。



修養科英語クラスについて

修養科英語クラスが来年 3 月末から 3 ヶ月間、お
 ちばにて開講される予定です。日本国査証の必要な
 志願者は、査証取得に時間がかかりますので、お早
 めに伝道庁にお知らせください。

天理教語学院 (TLI) おやさとふせこみ科出願

出願資格：次の条件 (教育課程、立場、日本語能力、
 進路) をいずれも満たしていること。

1. 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者。
2. 海外の教会長・布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時によふぼくの者。
3. 本校日本語科卒業 (見込み) 者を含め、入学時に「日本語能力試験 N3」相当以上の日本語力を有する者。

4. 卒業後、将来自国においてお道の用務に従事する予定の者。

出願書類：天理教語学院事務所で頒布 (1 部 500 円)
 出願期間：2025 年 10 月 1 日～ 10 月 31 日 但し、
 日曜日、祝祭日は除く (10 月 26 日は午
 後より受け付ける) 上記の期間以外は、
 いかなる理由があっても受け付けない。

一れつ会特別扶育募集

2026 年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶
 育」の募集をします。締切は 12 月 31 日です。

教祖 140 年祭帰参報告書

アメリカ伝道庁としての教
 祖 140 年祭帰参報告書を作成
 し、帰参予定の方には 10 月 1
 日までに報告書の提出をお願
 い致しておりましたが、未提
 出の方は 10 月 26 日 (日) まで
 に提出をお願い致します。尚、
 右の QR コードより、Google
 Form にても提出可能です。



教祖 140 年祭【特別展示】

今秋より、教祖ゆかりの品を中心とした教祖 140 年
 祭「特別展示」を開催

日程：10/25・26、11/8・9・15・16・22～26・29・
 30、12/6・7・13・14・20・21・25・26

毎月 26 日は午後 1 時より開催

10/25 は午前中のみ開催

立教 189 年 (2026 年) の開催は後日お知らせ

時間：午前 10 時～午後 3 時まで

場所：おやさとやかた南右第 2 棟

天理教ホームページをご確認ください (日本語のみ)。

<https://www.tenrikyo.org/se140/>

教祖 140 年祭「海外教友の集い」

海外部では、教祖 140 年祭に帰参される海外の教友
 が一堂に会して、年祭活動で得た喜びを分かち合
 い、更なる成人の歩みを進めることを誓い合う機会
 として開催します。

日時：立教 189 年 1 月 24 日 (土)

午後 2 時 30 分～午後 4 時 45 分

場所：天理教海外部 (おやさとやかた東右第四棟)

内容：感話 (弁士 3 名)

よろづよ八首総立ちまなび、歓談 (軽食あり)

参加御供：500 円

通訳言語 (予定)：英語、中国語、韓国語、タイ語

ポルトガル語、スペイン語

ネパール語、フランス語

申込期間：立教 188 年 10 月 27 日～ 11 月 29 日

※日曜・祝日以外の 9:00～11:50 / 13:00～15:30

詳細・参加申込書に関しては、リンク先 (<https://qr.paps.jp/thDga>) をご確認ください。(日本語のみ)

立教 189 年 1 月末教人資格講習会 教会長資格検定講習会開催日変更

願書受付日：1 月 23 日、24 日（従来通り）

開催期間：教人資格講習会

【変更前】1 月 27 日～2 月 10 日 →

【変更後】2 月 1 日～15 日

教会長資格検定講習会

【変更前】1 月 27 日～2 月 16 日 →

【変更後】2 月 1 日～21 日

教祖 140 年祭後の教会長御招宴

対象：直属教会長を除く全教会長 ※御招宴時点

日時：2026 年 1 月 28 日～2 月 1 日正午～13 時 30 分

※いずれかの日にちに 1 回出席

- ・ 海外教会長は、1/28 の出席になっています。
- ・ 通訳の不必要な海外教会長で 1/28 以外に直属としての割り当てがあれば、その日でも出席可能です。その場合、各々より直属教会に変更を願ひ出て下さい。

教祖 140 年祭 JR 天理教団体割引について

天理教おぢばがえり団参券とは別に、2025 年 9 月 1 日～2026 年 1 月 31 日までの期間、8 人以上の団体が対象となる割引がございます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

JR 天理教おぢばがえり団参券の新区間について

教祖 140 年祭に向けた特別措置として、2025 年 9 月 1 日～2026 年 1 月 31 日までの期間、JR 団参券に「京都-天理」の新コースが追加されます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

立教 189 年 1 月と 4 月の別席に関して

教祖 140 年祭前後の 1 月や御誕生祭前後の 4 月は、別席者の増加が予想されることから、事前にライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。



天理教ホームページ



海外部ホームページ

天理大学国際学部日本語学科入学案内

天理大学国際学部日本語科（留学生対象）にて日本のことを学びたい方は、以下の URL をご参照下さい。

『入試情報サイト』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/>

『大学案内』『入試ガイド』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/request/>

『日本学科留学生<国外在住>選抜入試概要』

https://www.tenri-u.ac.jp/ent/system/jp_int_etc/

入学課：Tel +81-743-62-2164, Fax +81-743-63-7368

E-mail, nyushi@sta.tenri-u.ac.jp

尚、海外受験の場合には、来日の必要はなく、書類提出のみで受験できるとのことです。

新任教会長

去る 7 月 26 日のおほこびをもって、大西太一トニーさんが、カリフォルニア教会の会長に任命されました。奉告祭は 8 月 31 日でした。



「私の抱負は自分の足元から陽気ぐらし実現して、少しずつその和を広げていきたいと思っています。」

各会連絡

ふしん委員会

- ・ バイオトープガーデンにあるスプリンクラーのコントロールパネルの交換、その他欠陥があるスプリンクラーの修理。
- ・ イーストホール 2 階の部屋で、故障していたいくつかの蛍光灯照明を、LED 照明に交換しました。

布教委員会

- ・ 教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番をおつとめ頂き、ありがとうございます。以下に 12 月までの当番をお知らせ致します。どうぞよろしくお願い致します。

10 月：文岡邦人、渡邊京子

11 月：国領ロバート、平井信乃、丹羽ハミルトン

12 月：屋敷ゲーリー、中川一二三

- ・10月25日に回廊拭きひのきしんを行います。帰参の方々は、朝づとめ45分前(午前5時30分)に、南礼拝場後方東側にご集合下さい。
- ・11月15日(土)の午後、よふぼくの集いを開催致します。8月末に行われた原典勉強会より、「おふでさき」の講義を拝聴し、引き続き練り合いを行います。また、夕づとめ後には、懇親会を計画しております。
受付：午後1時30分
勉強会：午後2時開始(4時30分までに終了)
なお、練り合いのグループ作成のため、Google Formに必要な事項のご記入の上、11月5日(水)までにご提出下さい。

教化育成委員会

- ・主事会の承認を得て、2026年のスリーデーコースはツーデーコースにし、期間を短くすることで参加しやすいプログラムを調整します。2026年3月21～22日に、アメリカ伝道庁とニューヨークセンターで開催予定です。
- ・今年の12月に開催される「おやさと練成会事前講習」の対象者に連絡をとっています。受講生が「TSA 冬季練成会」にも参加できるよう12月28～30日の期間で開催予定です。尚、カウンセラーは岩清水峻氏が務めてくださいます。
- ・TSA 冬季練成会
12月26(金)～12月29日(月)
内容：講話、餅つき、スキー等
申込用紙は近日中に配布致します。

広報委員会

- ・教祖140年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
情報提供先：川上 kamishuyo@hotmail.com
林 takhayashi@gmail.com
- ・伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用いただけるように作成し、また常にアップデートを努めております。是非、伝道庁ホームページをご覧いただき、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。
- ・ウェブサイトのドメインネームは、Tenrikyo.com から TenrikyoAmericaCanada.org に変更されています。

Future Path 委員会

- ・育成プログラムに関するアンケートを引き続き行なっています。Joy Workshop, スリーデーコース、修養会、よふぼくの集い、教会長夫妻研修会などの行事をより良いものにできるよう、役立てさせていただきます。

翻訳委員会

- ・通訳者ワークショップ
10月18日(土)午後1～3時

婦人会

- ・地区総会
シカゴ地区総会
10月26日(日)午前10時30分
於：ミッドウエスト教会
カナダ西部地区総会
11月23日(日)午前10時
於：グランビル教会

少年会

- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。
- ・来年8月の少年会おつとめまなび総会に向けて、各教会、布教所、出張所、及び各家庭にて、おつとめの練習をしましょう。
- ・鼓笛隊員募集中！鼓笛隊は、仲間と共に一手一手という教理を体得しながら、おつとめに役立つ音感・リズム感が身につく活動です。是非ご参加ください！
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、【moto1884@icloud.com】までお知らせ下さい。

青年会

- ・第99回天理教青年会総会は、10月25日(土)午後1時より本部中庭で開催されます。アメリカ青年会では、参加される方に交通助成を検討しています。助成の申請、お問い合わせは下記のメールアドレスまでお願いします。
seinenkainorthamerica@gmail.com
- ・アメリカ青年会の活動に関して、意見やアイデアを募集しています。以下にご連絡ください。
seinenkainorthamerica@gmail.com

NYセンター

- ・9/21 インターフェイス平和の集い
文化協会にて
- ・11/23 青年会ニューヨーク地区総会



教祖百四十年祭

天理教原典勉強会

去る8月30日～31日の2日間、伝道庁にて原典勉強会が開催されました。参加者の中から6名の感想文がウェブサイトに掲載されています。今回はその中から、二名の感想をご紹介します。

弓削 アリッサ

8月、天理教アメリカ伝道庁にて、フューチャーパス委員会主催の原典勉強会に参加する機会に恵まれました。仕事や家庭の責務に追われていましたが、この勉強会は信仰を最優先にすることの大切さを改めて認識する絶好の機会となりました。2日間、原典の学びを深め、周りの人々と語り合うことだけに集中しました。講師の東馬場先生と林先生は、「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」の解釈と理解について、深く解説してくださいました。「おふでさき」「みかぐらうた」は私にとって馴染み深い原典であり、日常的に目にするものです。しかし、丁寧な講義と深い議論を通して、これまで気づかなかったこれらの原典の側面を知ることができました。一方、「おさしづ」はこれまであまり研究してこなかった原典でしたが、この勉強会を通して深く理解することができました。



周囲に広がる深い知識に触発され、私はこれらの原典に時間を費やし続けるようになり、天理教と私自身の信仰にとって、原典がいかに重要であるかを改めて認識することができました。

私は婚約者のアレックと一緒に参加しました。彼に天理教を紹介したのです。彼は大人になって初めて天理教に触れる立場であり、また他の宗教とも深い関わりを持つ立場である私とは視点が異なります。この学びのセミナーは、私たち間で多くの興味深い疑問を生み、対話の場を与えてくれました。豊富な知識を授けてくださった講師の方々、そしてこのような素晴らしいセミナーを企画・運営してくださったすべての方々に深く感謝いたします。私はモチベーションとインスピレーションに満ち溢れ、親神様の御守護を何万倍も感じながら帰宅し、仕事に戻りました。

雪本ひろみ

原典勉強会の開催が発表されて以来、原典についてもっと学びたいという強い興味と熱意を抱いていました。教会で育ち、日々のおつとめを勤め、おふでさを定期的に読み、日常会話程度の日本語を話せるにもかかわらず、原典の言葉、そしてさらに重要なことに、その背後にある教えや意味を理解するのに苦労していました。翻訳なしでみかぐらうたを聴いても、残念ながら、私にとってはただ暗記した音節でしかないこ



とに気づきました。私たちの宗教の根幹を成す側面への理解を深めたいと思っていました。だからこそ、このセミナーに参加し、教えをより深く理解できる素晴らしい機会だと感じました。

まず第一に、セミナー全体を通して、講師の東馬場先生と林会長さんに深い感謝の気持ちを抱きました。お二人は、驚くほど深い知識、丁寧な指導、そして卓越した英語表現力で、効果的な講義をしてくださいました。私自身も学者であり、また音声学習者としても、このような講義形式の構成に心から感謝しています。歴史的、社会経済的、そして文化的文脈の中で提示された原典の分析は、目を見張るほど素晴らしく、天理教の始まり当初に親神様が選ばれた比喻、言葉、そしてタイミングを理解するのに役立ちました。講義は非常に分かりやすく、効率的で、そして率直に言って深いものでした。その週末、多くの新しい啓示を受けました。さらに、セミナー中に提供され、持ち帰った資料は、今後原典に直接取り組むための貴重で分かりやすい参考資料となるでしょう。

さらに、この機会にアメリカとカナダの天理教の教友と集い、絆を深めることができたことにも深く感謝しています。セミナーの大部分は、旧知の友人や新しい友人とのディスカッションセッションで構成されていました。様々な視点や質問が共有され、皆様のご意見やご質問を伺うことができ、大変嬉しく思いました。同時に、多くの点が非常に示唆に富み、これまで考えたことのない特定のテーマに対する私の考え方や意見を広げるのに役立ちました。また、セミナーそのもの以外にも、皆で一緒に時間を過ごすのが本当に楽しかったです。旧友に会ったり、新しい友人を作ったり、本当に充実した時間でした。講義以外でも互いの絆を深めることは、天理教の活動に深く根ざした重要な要素だと思います。

います。原典の学習に加えて、喜びを分かち合い、共に過ごすことは、私が個人的にこのような活動に参加したい理由の大きな部分です。フューチャーパス委員会、伝道庁のスタッフ、講師の皆様、そしてこのような素晴らしいイベントの実現に多大な時間と労力を費やしてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。また皆様とお会いできるのを楽しみにしています。そして、また皆様と学ぶことを楽しみにしています。



ご紹介した二名の方の他に、下記四名の方の感想文がウェブサイトに掲載されています。尚、掲載は英文のみです。

Alec Manasse

Casey Oiki

Inna Tarasiuk

Mark Taguma



<https://tenrikyoamericacanada.org/2025/09/scripture-study-seminar-2025-was-a-huge-success>

みちのだい育み塾

アメリカ婦人会は、9月20日（土）伝道庁にて「みちのだい育み塾」を開催しました。16歳から49歳までの会員を対象とし、子育て中の若いお母さんを中心に、約40人、内対象年齢の参加者13名、子供16名の参加がありました。

深谷主任の開講あいさつに続いて、日本語は深谷洋庁長、英語は雪本利清主事より場所を分けて講話をいただきました。いずれも「八つのほこり」をテーマに、参加者は誰もがメモを取りながら真剣に話に耳を傾けました。

その後は日本語グループ（2つ）、英語グループ（1つ）に分かれてのグループトークに移り、終始和やかな雰囲気の中進められました。

参加後のアンケートでは、「身近な題材で、お話を聴けて良かった。」「資料を読み返し、理解を深めて日頃に生かしたい」などの声をたくさん頂き大変好評でした。



LA 地区婦人会総会



全教会布教推進月間 9/20 於：伝道庁



TENRIKYO
MISSION TO W AMERICA & CANADA

WE'RE ONLINE!

www.TenrikyoAmericaCanada.org

Stay Updated! Scan the QR code with your camera phone.

携帯のカメラでQRコードをスキャンして、アメリカ伝道庁ウェブサイトの最新情報をチェックしてください!

CALENDAR

tenrikyoamericacanada.org/events-calendar

BLOG

tenrikyoamericacanada.org/blog-timeline

NEWSLETTERS

tenrikyoamericacanada.org/publications

SERMONS

tenrikyoamericacanada.org/sermons

OYASAMA-INSPIRED STORIES

tenrikyoamericacanada.org/stories-inspired-by-oyasama

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

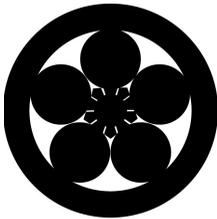
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.